

■はじめに

校園長の皆さん、こんにちは。

本年度もはや6月になりました。各校園では学校ビジョンに沿った学校経営を進めていただいていることと思います。



■「解脱上人 貞慶」展から



はじめに、奈良国立博物館で開催されていた、特別展「解脱上人 貞慶」展からお話します。奈良国立博物館学芸部長の西山氏から「奈良を深く知るためには、ぜひこの貞慶展を3回はみてください。」と薦められて行ってきました。特別展には、各地から貞慶上人にゆかりのある品々がたくさん集められ、大変見ごたえのある展覧会でありました。

一貞慶上人の唱えたこと一

さて、その貞慶上人は、平安から鎌倉の激動の時代を生きられた方です。今年、その800年遠忌にあたります。貞慶上人の生きた時代は戦いが多くあり、乱れた世の中と考えられていました。貞慶上人は、そのような世の中をよくしようと次のことを唱えました。

「戒律を守る」、「律学を学ぶ」、そして「寺を復興する」ということです。「寺を復興する」というのは、単に建物を復興するというものではありません。お寺を復興し、そこに人を集めて、仏の教えを伝えていく。人々の心に、大切なことを伝えていくことが大事だと考えたのです。今、私たちが生きている世の中は、貞慶上人が生きた時代とは大きく違います。しかし、どこか共通したところがあるのではないのでしょうか。

貞慶上人の唱えたこと

「戒律を守る」

「律学を学ぶ」

「寺を復興する」

一文化、歴史、伝統に対する思いを一

東日本大震災から1年がたちます。震災と津波で、被災地では多くのものを失ってしまいました。けれど、被災地は復興に向け大きく動いています。故郷や人々の心の中に残っているものを再び取り戻したい、そんな思いが復興への原動力となっているのではないのでしょうか。

奈良の大仏が戦火で焼けても復興してきたのも、聖武天皇の「動植、ことごとく栄えんと欲す」^(注)という願いや、「一枝の草、一把の土(ひとにぎりのひじ)を持て、像を助け造らむと情(こころ)に願わば、ほしいままにゆるせ」^(注)という大仏に対する人々の思

いが心の中に生き続けていたからではないでしょうか。

貞慶上人展を見ながら、今このときだからこそ、自分が生まれ育った故郷に対する思い、その土地の文化、歴史、伝統に対する思いを子どもたちにしっかりと考えさせ認識させる、そんな学習が大事だという思いを強くしました。

改めて、世界遺産学習を中心として、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」の育成に取り組んでいただくよう、よろしく申し上げます。

(注) 「盧舎那仏造願の詔」より

「盧舎那仏造願の詔」は、東大寺を創建した聖武天皇が、天平 15 年（743）に仏教の教えによって、国民ひとりひとりが思いやりの心でつながることによって国を鎮め、平和を導きだそうと発せられました。

—東大寺 H.P.より—

■学校ビジョンについて

さて、校園長の皆さんに、学校ビジョンを作ってもらうことにして、今年で3年目をむかえました。

—作成にあたって—

平成21年5月に策定した「奈良市教育ビジョン」は、学習指導要領の改訂という、国の教育の新たな方向性を踏まえ、奈良市の教育の向こう

10年間の進むべき道を示しています。その実現のために、それぞれの学校園で、「2年後、3年後にはこんな学校になっているようにしたい」という中期的な学校ビジョンの作成をお願いしてきました。そこには、国や奈良市の教育の方向性をふまえ「単年度の目標」というよりも、もう少し長いスパンで子どもたちの姿を見据えた中期的な学校経営を各学校園でしてほしい、という思いが込められています。

国の教育の方向性

(学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂)

奈良市教育ビジョン

(奈良市の向こう10年間のめざす姿)

学校ビジョン

(2～3年後の目指す学校の姿)

本年度の教育課程

(学校ビジョンを実現するために)

平成22年度4月定例校園長会の画面より

—学校ビジョン作成のねらい—

さて、学校ビジョン作成には、大きく2つのねらいがあります。

1つめのねらいは、「奈良市が推し進めようとしている教育の方向に沿って、各学校園で教育を進める」ということで、もうひとつのねらいは、「全職員がしっかりと学校ビジョンを共有し、保護者や地域へ発信していくということ」です。

《奈良市が推し進めようとしている教育の方向に沿って、各学校園で教育を進める》

このことについては、毎年の校園長会で特に次の4つのことに重点を置いて話をしてきました。

1つ目は、奈良市の教育の特色として、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」の育成ということです。このことについては、世界遺産学習を核にした取組の中で、幼稚園から高等学校まで、すべての学年で進めていってほしいと、話をしてきました。

2つ目は、保護者が強く願っておられることであり、また、学校教育としてしっかりと保障していかなければならない「学力の向上」の視点です。魅力ある授業を、ということで話をしてきました。

3つ目は、これからの学校教育を推し進めていくためには、「地域との連携・協働」が欠かせない、ということです。奈良市教育ビジョンの基本目標5にも、「地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進」として掲げています。

そして、4つ目は、それらを推し進めていくための「教員力の向上」です。とりわけ、「若手教員の育成」を喫緊の課題としてお願いしてきました。

《全職員がしっかりと学校ビジョンを共有し、保護者や地域へ発信していく》

このことについて昨年は、「活力ある学校づくり」ということで、次の6つのチェックポイントを例示して話をしました。

1. 社会や地域、保護者のニーズの変化に対応しようとする雰囲気があるかどうか。
2. 自分の今までの指導法に固執せず、授業方法や教材の工夫改善をしようとしているか。
3. 学校改善についての話題がたびたび出るかどうか。
4. 進んで規範を示し、お互いに認め合う雰囲気があるか。
5. 授業を見せ合い、建設的に話し合う雰囲気があるかどうか。
6. 教員として誇りと自覚を持とうとしているか。

学校改善をすすめるには、これらのことを全職員でしっかりと議論できることが大切です。真剣に考え、徹底的に議論することで考えが正しい方向に整理されます。「熟議」という言葉で話をしたこともありました。

そして、学校ビジョンを職員で「共有」できたら、保護者や地域の方とともに「どんな学校をつくるのか」「子どものために、何をしたらよいのか」「地域の方に何を協力してほしいのか」など学校の現状や取組、課題について議論し、地域や保護者の方に、「学校はどう考えているのか」、「学校はどんな子どもを育てたいのか」などをわかりやすい表現で工夫して「発信」して行ってください。

■おわりに

学校ビジョンを達成していくのは、これからの日々の学校運営の中です。学校ビジョンを提出いただいた今からがスタートです。実現に向かって取組をよろしくお願いします。